

平成 18 年 版
(2 0 0 6 年)

消 防 年 報



湯 河 原 町 消 防 本 部

はじめに

この年報は、湯河原町の消防現勢と平成17年中（一部平成17年度）における消防業務の実績及び統計を集録し、将来の消防対策の参考に資するとともに、消防の実態を紹介することを目的として編集しました。本書が広く活用され、“湯河原消防”に対する理解と認識を深めていただき、今後における消防行政の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年7月

湯河原町消防本部

全国統一防火標語

あなたは火事の恐ろしさを知らない	(昭和 43 年度・1968)
今捨てたタバコの温度が700度	(昭和 44 年度・1969)
防火三百六十五日	(昭和 45 年度・1970)
いま燃えようとしている火がある	(昭和 46 年度・1971)
慣れた火に 新たな注意	(昭和 47 年度・1972)
隣にも 声かけあって よい防火	(昭和 48 年度・1973)
生活の 一部にしよう 火の点検	(昭和 49 年度・1974)
幸せを 明日につなぐ 火の始末	(昭和 50 年度・1975)
火災は人災 防ぐはあなた	(昭和 51 年度・1976)
使う火を 消すまで離すな 目と心	(昭和 52 年度・1977)
それぞれの 持ち場で生かせ 火の用心	(昭和 53 年度・1978)
これくらい と思う油断を 火が狙う!	(昭和 54 年度・1979)
あなたです! 火事を出すのも 防ぐのも	(昭和 55 年度・1980)
毎日が防火デーです ぼくの家	(昭和 56 年度・1981)
火の用心 心で用心 目で用心	(昭和 57 年度・1982)
点検は 防火のはじまり しめくくり	(昭和 58 年度・1983)
“あとで”より“いま”が大切 火の始末	(昭和 59 年度・1984)
怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」	(昭和 60 年度・1985)
防火の大役 あなたが主役	(昭和 61 年度・1986)
消えたかな? 気になるあの火 もう一度	(昭和 62 年度・1987)
その火 その時 すぐ始末!	(昭和 63 年度・1988)
おとなりに あげる安心 火の始末	(平成 元 年度・1989)
まず消そう 火への鈍感 無関心	(平成 2 年度・1990)
毎日が 火の元警報 発令中	(平成 3 年度・1991)
点検を 重ねて築く 火災ゼロ	(平成 4 年度・1992)
防火の輪 つなげて広げて 無くす火事	(平成 5 年度・1993)
安心の 暮らしの中心 火の用心	(平成 6 年度・1994)
災害に 備えて日頃の 火の用心	(平成 7 年度・1995)
便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ	(平成 8 年度・1996)
つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火	(平成 9 年度・1997)
気をつけて はじめはすべて 小さな火	(平成 10 年度・1998)
あぶないよ ひとりぼっちにした その火	(平成 11 年度・1999)
火をつけた あなたの責任 最後まで	(平成 12 年度・2000)
たしかめて 火を消してから 次のこと	(平成 13 年度・2001)
消す心 置いてください 火のそばに	(平成 14 年度・2002)
その油断 火から炎へ 災いへ	(平成 15 年度・2003)
火は消した? いつも心にきいてみて	(平成 16 年度・2004)
あなたです 火のある暮らしの 見はり役	(平成 17 年度・2005)
消さないで あなたの心の 注意の火。	(平成 18 年度・2006)

目 次

- ・ はじめに
- ・ 全国統一防火標語
- ・ 目 次

【目 次】

1 町 勢〔色紙〕	
町章 / 湯河原町民憲章 / 町の木・町の花・町の鳥	1
執行部 / 歴代湯河原町長 / 歴代湯河原町助役	2
地勢 / 沿革	3
歴代消防長 / 歴代消防署長 / 叙位・叙勲者	4
湯河原町消防のあゆみ	5
2 管内情勢〔色紙〕	
位置・面積 / 人口・世帯数 / 所在地	13
町勢及び消防吏員 / 地区別人口・世帯数	14
消防配置図	15
3 組織・職員〔色紙〕	
消防の組織	16
消防本部・消防署事務分掌	17
消防力の整備指針と現有（人員） / 消防職員配置状況	19
消防職員の年齢・勤続年数・居住地状況	20
特殊技能資格取得状況	21
4 予算〔色紙〕	
消防費の比較 / 消防予算科目別状況	22
5 施設・機械〔色紙〕	
消防力の整備指針と現有（署所） / 消防庁舎配置状況（常備）	23
／ 消防力の整備指針と現有（車両）	
消防車両一覧表	24
消防力の整備指針と現有（水利） / 管区別水利配置状況	26
6 予防〔色紙〕（裏面 全国統一危険物安全推進標語）	
暫定適マーク制度の実施状況 / 建築同意事務処理状況の推移	27
防火対象物と防火管理者選任状況	28
建築同意・予防査察・消防用設備等設置届出検査等	30
中高層建築物状況・防災センター設置状況	32
予防関係の申請・届出状況	33
危険物製造所等貯蔵量別施設数	34
危険物各種申請・届出状況	35
防火団体・外郭団体	36
7 火 災〔色紙〕	

火災状況	37
月別火災発生状況	38
覚知時間別火災状況	40
火災の推移	41
消防本部発足以来の主な火災	42
8 救 急〔色紙〕	
月別救急活動状況	43
地区別救急活動状況（湯河原町・真鶴町・熱海市泉地区・管外）	44
／年齢区分別搬送人員／傷病区分別搬送人員	
署所別救急活動状況（本署・奥湯河原分署・真鶴分署）	45
／収容所要時間別搬送人員／時間別救急出場件数	
救急隊員の行った応急処置状況	46
救急車積載品	47
救急の推移	48
9 救 助〔色紙〕	
救助活動状況／地域別救助出場状況	49
時間別救助出場状況／救助の推移	50
救助工作車装備品	51
10 通 信〔色紙〕	
月別災害等受付状況／災害等受付状況の推移	52
無線局配置状況	53
無線局使用状況	54
通信設備配置状況	55
11 気 象〔色紙〕	
天候別日数／月別気象状況	56
風向／気温	57
気象通報受信状況	58
12 消 防 団〔色紙〕	
歴代消防団長	59
消防団員状況／消防団員報酬（年額）／消防団員手当	60
／消防団員配置状況	
消防団員年齢・勤続年数／消防団員職業状況	61
消防団の現況／消防団詰所設置状況	62
消防団ポンプ配置状況	63
町消防操法大会優勝分団	64

表紙のロゴタイプについて

当消防本部のロゴタイプとして平成13年に職員が考案したもので、中心の図は町章に救助隊を表すカラビナ、消防隊を表す梯子、救急隊を表すギリシャ神話に登場する救急医療の神であるヘビを図案化し、職員が一丸となって任務遂行し消防使命達成することを表しています。

平成18年版

湯河原町消防年報

平成18年7月発行

編集と発行 湯河原町消防本部

〒259-0303 湯河原町土肥1-5-22

TEL 0465-63-5121

FAX 0465-63-7666

印刷所 (有)タケダ印刷

〒259-0301 湯河原町中央2-3-1

TEL 0465-63-2489

1 町 勢

町章 / 湯河原町民憲章 / 町の木・町の花・町の鳥	1
執行部 / 歴代湯河原町長 / 歴代湯河原助役	2
地勢 / 沿革	3
歴代消防長 / 歴代消防署長 / 叙位・叙勲者	4
湯河原町消防のあゆみ	5 ~ 12

町章



昭和36年3月28日制定

「ゆ」の字を図案化し、みかんの断面と温泉を表し、平和と繁栄を象徴した。

湯河原町民憲章

湯河原町民憲章は、わたしたち町民の生活の道標^{みちしるべ}です。

まちづくりの実践活動に努め、誰もが心に泉のもてる誇り高いふるさとの建設を進めましょう。

- 1 健康をよこごび、思いやりで満ちた明るく住みよいまちをつくりましょう
- 1 自然をはぐくみ、青空のもとにさわやかな緑と花のまちを築きましょう
- 1 伝統を重んじ、香り高い文化の生まれるまちを創りましょう
- 1 教養を深め、こぞって時代にさきがけた“地球民”をめざしましょう
- 1 訪れる人々を温かく迎え、世界にはばたくまちを拓きましょう

昭和61年3月1日制定

町の木・町の花・町の鳥

木



椿

花



桜



みかん

鳥



めじろ

昭和61年3月1日制定

執行部

(平成18年4月1日現在・敬称略)

町長 米岡 幸男 (平成7年5月6日就任)

助役 鈴木 讓 (平成17年3月18日就任)

消防長 畑 敏明 (平成15年7月1日就任)

消防団長 岩本 賢一 (平成18年4月1日就任)

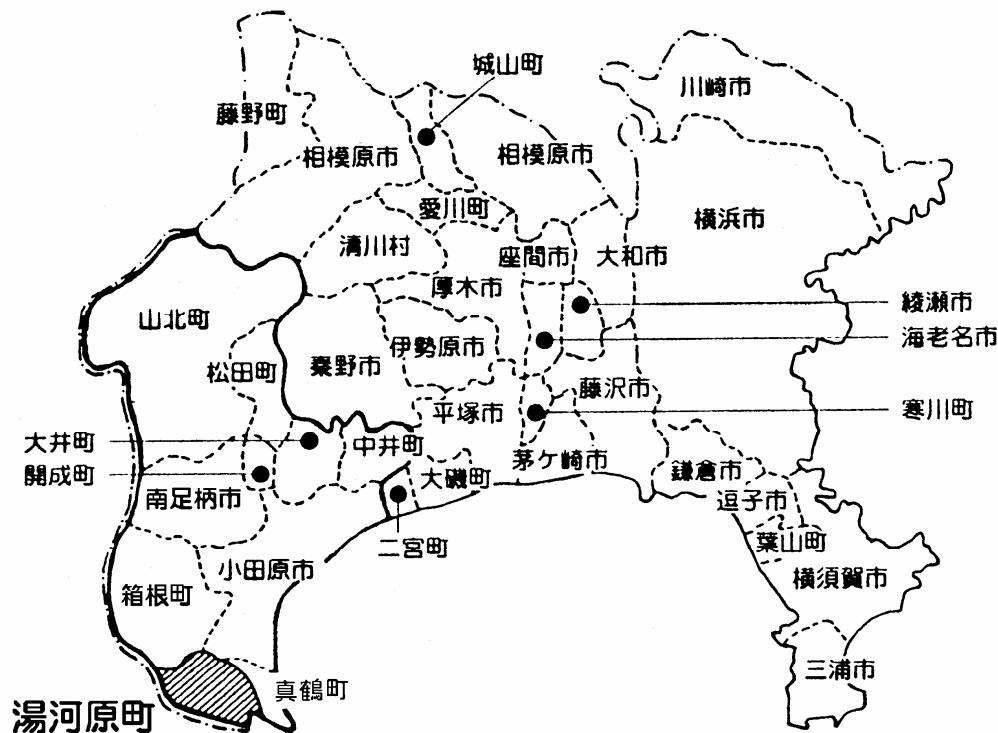
歴代湯河原町長 (町村合併後)

歴代	氏名	就任	退任	任期
1・2・3	八亀武雄	昭和30年5月6日	昭和42年4月29日	3期
4・5	高杉茂利	昭和42年5月6日	昭和50年5月5日	2期
6・7	杉山 實	昭和50年5月6日	昭和58年5月5日	2期
8・9	小澤忠一	昭和58年6月6日	平成3年5月5日	2期
10	丸山孝夫	平成3年5月6日	平成7年5月5日	1期
11・12・13	米岡幸男	平成7年5月6日	在任	

歴代湯河原町助役 (町村合併後)

歴代	氏名	就任	退任	備考
1	小澤 栄三郎	昭和30年10月24日	昭和34年3月19日	
2	沢村 佐市	昭和36年8月15日	昭和38年6月8日	
3	室伏 孝久	昭和39年6月24日	昭和43年6月23日	初代消防長歴任
4・5	林 泰助	昭和44年2月1日	昭和48年4月30日	第3代消防長歴任
6・7	須藤 近喜	昭和48年6月26日	昭和56年6月25日	第2代消防長歴任
8	小澤 忠一	昭和56年7月4日	昭和58年3月15日	
9	高橋 達昇	昭和58年5月19日	昭和62年5月18日	
10	二見 完	昭和62年5月19日	平成3年5月18日	
11	室伏 富夫	平成4年1月28日	平成7年5月5日	
12・13	横井 彦之	平成7年5月22日	平成15年5月21日	第9代消防長歴任
14	鈴木 讓	平成17年3月18日	在任	

神奈川県における湯河原町の位置



地 勢

J R東海道本線を東京から約100km、神奈川県西南端に位置する湯河原町は、相模灘を東に望み、西・南・北の三方を箱根外輪山や伊豆・熱海の山々に囲まれ、一年を通じ温暖で、風光明媚な環境にあります。

鞍掛山に源を発する千歳川は、神奈川県と静岡県（熱海市及び函南町）の県境であり、箱根外輪山に源を発する藤木川と合流している。この千歳川と、もう1本の大観山に源を発する新崎川とに挟まれた沖積地に展開するゆるやかな丘陵地を形成し、そのほかは比較的急傾斜の山地で形成されている。

沿 革

湯河原町は、古くは万葉の時代から温泉場として人々に知られていた。江戸時代には、現在の福浦地区を除く宮上村・宮下村・門川村・城堀村・鍛冶屋村・吉浜村を土肥六ヶ村とした。明治17年に宮上村・宮下村・門川村・城堀村・鍛冶屋村・吉浜村の六ヶ村が連合して吉浜村に戸長役場を置いて吉浜村外五ヶ村とした。

明治22年4月町村制が施行され、宮上村・宮下村・門川村・城堀村の四ヶ村を併せて土肥村に、鍛冶屋村・吉浜村の二ヶ村を併せて吉浜村と称した。

大正15年7月1日に土肥村は湯河原町となり、昭和15年4月1日に吉浜村は吉浜町となった。昭和21年8月1日に福浦村は真鶴町外二ヶ村組合から分離し、新たに福浦村としての第一歩を踏み出した。そして湯河原町は観光地、吉浜町は農業地、福浦村は漁業地として一般の知るところとなった。

その後、昭和28年9月1日に公布された町村合併促進法に基づき、同30年4月1日に湯河原町・吉浜町・福浦村の二町一村が合併し、現在の湯河原町が誕生した。

歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	室伏孝久	昭和43年4月1日～昭和43年6月23日	助役兼消防長事務取扱
第2代	須藤近喜	昭和43年6月24日～昭和44年2月9日	総務課長兼消防長事務取扱
第3代	林泰助	昭和44年2月10日～昭和48年4月30日	助役兼消防長事務取扱
第4代	山口辰生	昭和48年5月1日～昭和60年11月30日	消防署長兼任期間有
第5代	桜井均	昭和60年12月1日～平成元年3月31日	
第6代	木村昌夫	平成元年4月1日～平成5年9月30日	
第7代	松本光男	平成5年10月1日～平成7年9月30日	
第8代	露木謙太郎	平成7年10月1日～平成9年11月30日	
第9代	横井彦之	平成9年12月1日～平成9年12月31日	助役兼消防長事務取扱
第10代	高橋光政	平成10年1月1日～平成13年3月31日	
第11代	小澤稔	平成13年4月1日～平成15年6月30日	
第12代	畑敏明	平成15年7月1日～在任	

歴代消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	山口辰生	昭和43年4月1日～昭和57年3月31日	
第2代	芳賀弘	昭和57年4月1日～昭和60年3月31日	
第3代	露木謙太郎	昭和60年4月1日～平成7年3月31日	
第4代	山橋信治	平成7年4月1日～平成11年9月31日	
第5代	三木甫昭	平成11年10月1日～平成13年3月31日	
第6代	山橋信治	平成13年4月1日～在任	再任

叙位・叙勲者

区分	職・階級	氏名	受章年月日	概要
消防職員	消防監	山口辰生	平成5年7月8日	勲五等双光旭日章
	消防司令	芳賀弘	平成9年11月3日	勲六等单光旭日章
消防団員	団長	常盤興一	昭和44年4月29日 平成3年12月31日	勲五等双光旭日章 従六位
	団長	小石川清作	平成元年4月2日	勲五等瑞宝章
	団長	福井三七夫	昭和53年4月29日	勲五等瑞宝章
	団長	深澤公行	平成3年11月3日	勲六等单光旭日章
	団長	鈴木嘉一	平成6年6月16日	勲五等瑞宝章
	団長	岩本良夫	平成8年4月29日	勲五等瑞宝章

湯河原町消防のあゆみ

<p>明治 22 年 27 年 2 月 40 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土肥村消防組（5 部 290 人）発足（当時の主な機材はとび口、手桶） ・吉浜村消防組発足 ・土肥村消防組に手押しポンプを各部配備し、防火用タンクを主要箇所に設置する。
<p>大正 13 年 15 年 7 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化を図るためガソリンポンプの導入を開始する。 ・土肥村が湯河原町となり、土肥村消防組を湯河原町消防組に改称する。
<p>昭和 14 年 4 月 15 年 4 月 16 年 ~ 23 年 3 月 26 年 11 月 30 年 7 月 31 年 1 月 36 年 5 月 42 年 5 月 42 年 6 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・警防団令施行に基づき、湯河原町警防団に改称する。この頃、消防ポンプ車を 2 台購入し第 3 分団（宮下）及び第 4 分団（宮上）に配備する。 ・吉浜村消防組が吉浜村警防団に改称する。 ・吉浜村が町制となり、吉浜町警防団に改称する。 ・消防ポンプ車を第 1 分団（門川）に配備。その後、同ポンプ車は第 2 次大戦中に川崎市防衛を命ぜられ、昭和 20 年 4 月 15 日(日)に米軍機の川崎空襲により直撃弾を受け焼失する。 ・消防団令施行に基づき湯河原町消防団、吉浜町消防団にそれぞれ改称する。 ・湯河原町消防団の全分団に消防ポンプ車配備を完了する。 ・熱海市と消防相互応援協定を締結した。 ・湯河原町・吉浜町・福浦村が 4 月に町村合併し、初代の常盤與一消防団長のもと 9 個分団 349 人、消防ポンプ車 8 台、ガソリンポンプ 1 台で湯河原町消防団が発足する。 ・湯河原町消防協会発足 ・電報電話局の協力を得て、全分団に対し消防専用電話を設置した。 ・消防組織法第 10 条により消防本部及び消防署を置かなければならない市町村に指定される。 ・湯河原町役場総務課消防係にて救急業務を開始する。
<p>昭和 43 年 4 月 6 月 7 月 10 月 12 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部、消防署を町役場分庁舎に設置〔設置場所：湯河原町門川 439 番地（現・湯河原町中央 2 - 2 - 1）〕職員 22 人、消防ポンプ自動車 2 台、救急車 1 台及び指令車 1 台で常備消防が発足し、初代消防長（事務取扱）に助役の室伏孝久氏が就任する。 ・消防本部事務室、署待機室、仮眠室の増改築工事に着手 ・初代消防長 室伏孝久氏 退任 ・第 2 代消防長 須藤近喜氏 就任 （役場総務課長兼消防長事務取扱） ・庁舎の増改築工事が完了し、出場体制を 1 隊 7 人計 14 人（2 交替制）で編成 ・消防無線を整備（消防ポンプ自動車 1 台、指令車 1 台及び救急車に車載無線機を積載） ・特別救助隊の組織編制（隊員 9 人）
<p>昭和 44 年 2 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（ニッサン FC60 型）1 台購入 消防署に配備 ・第 2 代消防長 須藤近喜氏 退任（消防長事務取扱兼務を解く） ・第 3 代消防長 林 泰助氏 就任（助役兼消防長事務取扱）

昭和 44 年 4 月 6 月 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員定数条例一部改正 消防職員定数 30 人 ・第 1 回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員 2 名） ・県ポンプ操法大会に応用操法の部において、署と団で中継操法を実施
昭和 45 年 4 月 7 月 8 月 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・湯河原町防火安全対策協会発足 ・第 2 回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員 6 名） ・県消防ポンプ操法大会に救助隊が出場 ・防火管理者上級講習会を開催（県と共催）
昭和 46 年 1 月 3 月 4 月 5 月 7 月 11 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車（いすゞエルフ）1 台購入 消防署に配備 ・消防本部及び消防団に消防庁長官から表彰旗授与 ・初代消防団長 常盤與一氏 退団 ・文化福社会館に第 7 分団（吉浜・中央）詰所併設 〔RC 造 3 階建 延べ面積 1,324.92 m² 占有面積 96.1 m²〕 ・第 2 代消防団長 小石川清作氏 就任（前副団長兼団長補佐） ・消防署エアerpック着装検索競技大会の実施 ・水難救助訓練の実施（於：吉浜海岸） ・第 3 回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員 2 名） ・県消防操法大会に消防署甲・乙隊合同で出場 ・第 9 分団（福浦）詰所新築〔木造一部鉄骨造 2 階建 延べ面積 86.5 m²〕 ・職員定数条例一部改正 消防職員定数 52 人（改正前 30 人）
昭和 47 年 5 月 8 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・熱海市との消防相互応援協定を変更 ・県消防操法大会出場 第 3 分団（宮下）優秀賞を受賞 ・小型動力ポンプ（B3 級 V38A）購入 第 9 分団に配備 ・救助工作車（いすゞ TR30）1 台購入 本署に配備 ・消防ポンプ自動車（いすゞ TXG10）1 台購入 第 7 分団に配備
昭和 48 年 3 月 4 月 5 月 10 月 11 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・宮上区民会館に併設する宮上分署、消防独身寮及び第 2 分団（宮上）詰所が完成し、宮上分署が発足する。〔設置場所：湯河原町宮上 229 番地〕 ・第 2 代消防団長 小石川清作氏 退団 ・第 3 代消防団長 福井三七夫氏 就任（前副団長兼団長補佐） ・第 3 代消防長 林泰助氏 退任（退職） ・第 4 代消防長 山口辰生氏 就任（署長兼務） ・第 3 分団（宮下）詰所新築〔RC 造 2 階建 延べ面積 102.2 m²〕 ・小型動力ポンプ（B3 級）1 台購入 第 7 分団（吉浜・中央）に配備 ・消防ポンプ自動車（A2 級）1 台購入 第 6 分団（鍛冶屋）に配備
昭和 49 年 8 月 10 月 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ（B3 級）1 台購入 第 8 分団（川堀）に配備 ・消防ポンプ自動車（A2 級）1 台購入 第 5 分団（門川）に配備 ・第 8 分団（川堀）詰所新築〔S 造 2 階建 延べ面積 84.8 m²〕
昭和 50 年 8 月 9 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・県消防操法大会出場 第 5 分団（門川）優秀賞を受賞 ・消防ポンプ自動車（A2 級）1 台購入 第 9 分団（福浦）に配備 ・小型動力ポンプ（B3 級）1 台購入 第 1 分団（温泉場・奥湯河原）に配備 ・（社）日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈本署に配備
昭和 51 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・16 日に真鶴との消防団事務を除く消防事務委託を締結し、真鶴分署を開署する。

昭和 51 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・真鶴町消防事務の受託により消防事務を開始 ・(社)日本損害保険協会から救急自動車 1 台寄贈 本署配備
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車 (A2 級) 1 台購入 第 8 分団 (川堀) に配備 ・小型動力ポンプ (B3 級) 1 台購入 第 6 分団 (鍛冶屋) に配備
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員定数条例一部改正 消防職員定数 62 人 (改正前 52 人)
昭和 52 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 代消防団長 福井三七夫氏 退団
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新消防庁舎開庁 [RC 造 3 階建 延べ面積 1,034 m²] ・第 4 代消防団長 岩本良夫氏 就任 (前副団長兼団長補佐)
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・県消防操法大会出場 第 2 分団 (宮上) 優秀賞を受賞
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 6 分団 (鍛冶屋) 詰所新築 [鉄骨造 2 階建 延べ面積 119.7 m²]
昭和 53 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車 (A2 級) 1 台購入 第 4 分団 (城堀) に配備
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ (B3 級) 1 台購入 第 2 分団 (宮上) に配備 ・奥湯河原分署開設 [設置場所: 湯河原町宮上 775-27 RC 造 2 階建 区民会館併設 延べ面積 176 m² 1 階部分使用占有面積約 100 m²] ・宮上分署廃止 (宮上分署占有部分は、第 2 分団 (宮上) 詰所として改築)
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ (B3 級) 2 台購入 本署・第 3 分団 (宮下) に配備
昭和 54 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車 (BD- 型) 2 台購入 奥湯河原分署・真鶴分署に配備
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・湯河原・真鶴危険物安全協会発足
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 分団 (城堀) 詰所新築 [鉄骨造 2 階建 延べ面積 113.5 m²]
昭和 55 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご付消防自動車 (24 缸級) 1 台購入 本署に配備 ・消防ポンプ自動車 (BD- 型) 1 台購入 第 2 分団 (宮上) に配備
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員定数条例一部改正 消防職員定数 69 人 (改正前 62 人)
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・県消防操法大会に出場 第 1 分団 (温泉場・奥湯河原)
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)日本自動車工業会から救急車 (トヨタ 2B 型) 1 台寄贈 本署に配備
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ (B3 級) 1 台購入 第 4 分団 (城堀) に配備
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防指令車 1 台購入 ・消防ポンプ自動車 (CD- 型) 1 台購入 第 1 分団 (温泉場・奥湯河原) に配備
昭和 56 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 代消防団長 岩本良夫氏 退団
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 代消防団長 鈴木嘉一氏 就任 (前副団長兼団長補佐)
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・予防査察車 1 台購入 消防本部に配備 ・小型動力ポンプ (B3 級) 1 台購入 第 5 分団 (門川) に配備
昭和 57 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急指令装置 C 型の設置工事完了 ・地震防災講演会の実施 (講師: 静岡放送報道部デスク 川端信正氏) ・真鶴トンネル防災訓練を道路公団、真鶴町消防団及び小田原警察署と合同で実施する。 ・表示公表制度「防火基準適合表示要綱」に基づいて、管内の優良防火宿泊施設に対して第 1 回表示「適」マークの交付を行う。
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により通信指令係新設
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防事務連絡車 1 台購入 消防本部に配備
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ (B3 級) 1 台購入 第 9 分団 (福浦) に配備

昭和 58 年 3 月	・真鶴分署新庁舎完成〔設置場所：真鶴町真鶴 515-1 鉄骨造 2 階建 消防団詰所併設 延べ面積 307 m ² 1 階部分使用占有面積 122 m ² 〕
7 月	・横浜市消防局航空隊と合同で水難救助訓練を実施（於：吉浜海岸）
10 月	・水防工法講習会の開催（講師：岩橋武氏）
12 月	・救急車（ニッサン 2B 型）1 台購入 本署に配備
昭和 59 年 2 月	・地震防災講演会の開催 （講師：NHK 解説委員 伊藤和明氏）
3 月	・署内救助競技大会の実施 ・小型動力ポンプ（B3 級）1 台購入 第 7 分団（吉浜・中央）に配備
6 月	・第 9 回県下消防救助技術指導会“はしご登はんの部”において、隊員 1 名が関東地区指導会に選出される。 ・水防工法実技の実施（協力：小田原市消防本部）
7 月	・湯河原町幼年消防クラブ発足
8 月	・関東地区救助技術指導会に出場
9 月	・「救急の日」に併せ、町内各地区の婦人会を対象に救急講習会を開催 ・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 3 分団（宮下）に配備
12 月	・小型動力ポンプ（B3 級）1 台購入 第 8 分団（川堀）に配備
昭和 60 年 3 月	・第 5 代消防団長 鈴木嘉一氏 退団
4 月	・第 6 代消防団長 深澤公行氏 就任（前副団長兼団長補佐）
8 月	・原因調査用車両 1 台購入 消防本部に配備
9 月	・(社)日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈 本署に配備 ・第 4 代消防長 山口辰生氏 退任（退職）
11 月	・第 5 代消防長 桜井均氏 就任
12 月	（町長部局から出向 前民生部長） ・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 9 分団（福浦）に配備
昭和 61 年 7 月	・救急車（ニッサン 2B 型）1 台購入 本署に配備
11 月	・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 8 分団（川堀）に配備
昭和 62 年 8 月	・(財)日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車（ニッサンアトラス）1 台 交付
10 月	・湯河原町消友会発足
12 月	・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 7 分団（吉浜・中央）に配備
昭和 63 年 6 月	・第 13 回県下消防救助技術指導会に出場“はしご登はんの部”において、隊員 1 名が関東地区指導会に選出される。
7 月	・第 17 回消防救助技術関東地区指導会に出場
9 月	・深澤消防団長から団指令車（トヨタクラウン）寄贈
10 月	・消防ポンプ自動車（CD- 型）2 台購入 奥湯河原分署・真鶴分署に配備 ・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 5 分団（門川）に配備
平成元年 2 月	・消防出初式の自粛に伴い、優良消防団員表彰式を行う（於：観光会館）
3 月	・第 5 代消防長 桜井均氏 退任（町長部局に復帰 総務部長）

平成元年 4月	・第6代消防長 木村昌夫氏 就任
7月	・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第6分団（鍛冶屋）に配備
10月	・湯河原ロータリークラブから携帯用投光機（エンジンライト9台）寄贈9個分団に配備
12月	・隣接する静岡県田方地区消防組合と消防相互応援協定を締結
平成2年 3月	・第6代消防団長 深澤公行氏 退団
4月	・第7代消防団長 八亀義臣氏 就任（前副団長兼第1中隊長）
10月	・救急車（防振型3000cc）を購入 本署に配備
11月	・深澤前消防団長から操法用備品（火点標的一式）寄贈
12月	・救助工作車（型）を購入 本署に更新配備 ・飛田京子様からの寄付により災害組織用救急箱を購入 署所に配備
平成3年 7月	・県津波対策訓練の実施（於：吉浜海岸）
10月	・消防ポンプ自動車（CD-型・電動式ホースレイヤー装備）の購入本署に配備
平成4年 2月	・消防指令車（トヨタクラウン）購入 ・職員定数条例一部改正 消防職員定数77人（改正前69人）
3月	・第1分団（温泉場・奥湯河原）詰所新築〔鉄骨造2階建 延べ面積127.6㎡〕
6月	・第17回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	・第21回消防救助技術関東地区指導会に出場 ・第38回県消防操法大会に出場 第2分団（宮上）最優秀賞（優勝）を受賞
9月	・職員定数条例一部改正 消防職員定数84人（改正前77人） ・消防団員定数条例一部改正 定数240人（改正前271人）
10月	・予防広報車（トヨタハイエース）購入
11月	・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第4分団（城堀）に配備
平成5年 3月	・救急講演会の実施（講師：小田原市立病院 河野内科医長） ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第1分団（温泉場・奥湯河原）に配備
4月	・応援協定で実施していた熱海市泉地区の救急業務を4月1日から救急事務受託に移行する。
6月	・第18回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	・第22回消防救助技術関東地区指導会に出場
9月	・第6代消防長 木村昌夫氏 退任（町長部局に復帰 総務部長）
10月	・第7代消防長 松本光男氏 就任（町長部局から出向 前民生部長）
12月	・高規格救急車を購入 本署に配備
平成6年 2月	・救急特別研修会の開催（講師：東京消防庁 赤羽消防司令）
6月	・消防活動研修会の開催（講師：東京消防庁 日野消防司令）
平成7年 1月	・1月17日に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）に伴い18日～24日までの7日間、救助工作車により隊員5名を救助応援のため神戸市消防局へ派遣する。 ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第2分団（宮上）に配備
3月	・第7代消防団長 八亀義臣氏 退団
4月	・第8代消防団長 藤中倉藏氏 就任（前副団長兼第3中隊長）

平成 7 年 5 月	・救急救命士 1 名資格取得
6 月	・消防体育研修会の開催（講師：東京消防庁 島貫消防司令補）
9 月	・第 7 代消防長 松本 光 男 氏 退任（町長部局に復帰 情報公開準備室長）
10 月	・第 8 代消防長 露木 謙 太 郎 氏 就任（前消防本部次長） ・救急車（防振型 3000 cc）を購入 本署に配備
11 月	・横浜市消防局航空隊と合同訓練を実施（於：県立湯河原高等学校）
平成 8 年 2 月	・火災原因調査研修会の開催（講師：東京消防庁 杉崎消防司令）
4 月	・機構改革を実施し、消防本部に 2 課（管理課・警防課）設置
5 月	・救急救命士 1 名資格取得（総員 2 名）
6 月	・第 21 回県下消防救助技術指導会に出場 “ はしご登はんの部 ” において隊員 1 名が関東地区指導会に選出される。 ・高度救助用資機材（画像探索機 型、コンクリート・鉄筋切断用チェンソー、鉄筋カッター、削岩機、マット式空気ジャッキ）を購入本署に配備
7 月	・第 25 回消防救助技術関東地区指導会に出場
10 月	・湯河原町消防本部消防職員委員会発足
11 月	・救急救命士 1 名資格取得（総員 3 名）
12 月	・消防ポンプ自動車（CD- 型）1 台購入 第 1 分団（温泉場・奥湯河原）に配備 ・八亀前消防団長から応急手当普及啓発用資機材（心肺蘇生訓練人形及び応急手当講習用パネル）寄贈
平成 9 年 6 月	・第 22 回県下消防救助技術指導会に出場 “ はしご登はんの部 ” において隊員 1 名が関東地区指導会に選出される。
7 月	・第 26 回消防救助技術関東地区指導会に出場 全国大会に選出される。
8 月	・第 26 回全国消防救助技術指導会（千葉県消防学校）に出場 ・インパル消火装置搭載の消防用軽自動二輪車（赤パイ）を 2 台購入本署に配備 ・地震対策情報収集用 50 cc トレールバイクを 2 台購入両分署（奥湯河原分署・真鶴分署）に配備
9 月	・消防二輪機動隊（赤パイ隊）の運用開始
11 月	・救急救命士 1 名資格取得（総員 4 名） ・第 8 代消防長 露木 謙 太 郎 氏 退任（退職）
12 月	・第 9 代消防長 横 井 彦 之 氏 就任（助役兼消防長事務取扱） ・水槽付消防ポンプ自動車（1,700 cc）1 台購入 本署に更新配備 ・第 9 代消防長 横 井 彦 之 氏 退任（消防長事務取扱兼務を解く）
平成 10 年 1 月	・第 10 代消防長 高 橋 光 政 氏 就任（町長部局から出向 前総務部長）
3 月	・消防二輪機動隊（赤パイ隊）が、オレンジマラソン大会の伴走警備を行う（以後毎年実施）
4 月	・機構改革により消防署を 3 部制（三交替制）とし、消防本部管理課を総務課に改称する。 ・国際ソロプチミスト湯河原から高度救命処置用訓練人形（1 式）寄贈
7 月	・第 23 回県下消防救助技術指導会に出場 “ はしご登はんの部 ” において隊員 1 名が関東地区指導会に選出される。
平成 10 年 7 月	・第 27 回消防救助技術関東地区指導会に出場、全国大会に選出される。 ・第 41 回県消防操法大会出場 第 2 分団（宮上）最優秀賞（優勝）を受賞、第 16

8月	<ul style="list-style-type: none"> 回全国消防操法大会に神奈川県代表として選出される。 ・第27回全国消防救助技術指導会（大阪市消防学校）に出場、“はしご登はんの部”において入賞する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・水難救助対策で潜水器具4式購入 本署に配備 ・奥湯河原分署に高度救命処置資機材装備の救急自動車を配備し、救急業務を開始 ・第16回全国消防操法大会（横浜市消防訓練センター）において、第2分団（宮上）が“ポンプ車の部”において、神奈川県代表として出場し、優良賞を受賞する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員5名）
平成11年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8代消防団長 藤中倉藏氏 退団
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第9代消防団長 加藤 博氏 就任（前副団長兼第2中隊長） ・藤中前消防団長から消防用簡易水槽4基（角形水槽1基、パネル水槽3基）寄贈
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員6名） ・水難救助対策で潜水器具を購入 本署に配備
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員7名）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 奥湯河原分署に配備
平成12年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・（財）神奈川県消防協会から消防団に表彰旗授与 ・岩本副団長から災害用ヘッドライト（50個）寄贈 消防団に配付
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員8名）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急自動車1台購入 本署に更新配備
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・真鶴分署に高規格救急自動車を配備し、救急業務を開始する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第3分団（宮下）に配備
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員定数条例一部改正 消防職員定数81人（改正前84人） ・第2分団（宮上）詰所が完成〔鉄骨造2階建 延べ面積138.68㎡〕
平成13年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・県内緊急消防援助隊訓練に消防二輪機動隊（赤パイ隊）2台が参加（於：神奈川県総合防災センター）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第10代消防長 高橋光政氏 退任（町長部局に復帰 経済建設部長）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第11代消防長 小澤 稔氏 就任（町長部局から出向 前経済建設部長）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員9名）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第26回県下消防救助技術指導会に出場“はしご登はんの部”において隊員1名が関東地区指導会に選出される。 ・湯河原町女性防火クラブ発足
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回消防救助技術関東地区指導会に出場 ・山北町丹沢湖において実施した県西地区消防合同訓練（水難救助訓練）に参加する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 真鶴分署に配備
平成14年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団に（財）日本消防協会から竿頭授与
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・真鶴トンネルの防災対策に貢献したとして、日本道路公団より当消防本部が表

5月	<p>彰を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員10名）
平成15年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・湯河原町女性防火クラブに、(財)日本消防協会から優良婦人消防隊表彰授与 ・高規格救急自動車1台購入 奥湯河原分署に配備
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本消防協会から消防団司令車（三菱パジェロ）1台交付
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員11名）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第11代消防長 小澤 稔氏 退任（町長部局に復帰 都市整備部長）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第12代消防長 畑 敏明氏 就任（町長部局から出向 前環境農政部長）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮車（マツダボンゴ）購入 警防課に配備
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第16回全国女性消防操法大会に県代表として湯河原町女性防火クラブが出場した。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめ公園において県西地区消防合同訓練（複合用途対象物火災訓練）を実施した。 ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第9分団（福浦）に配備
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本消防協会から消防活動用二輪車（ヤマハセロー）3台交付、本署・奥湯河原分署・真鶴分署に配備
平成16年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員のための実践的な消防活動マニュアルビデオ（風水害編）製作に貢献したとして、(財)日本消防協会から本町消防団に表彰状授与
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話からの119番間接受信の運用開始
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本宝くじ協会から消火通報訓練指導車（けすゾウ君）1台交付
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第8分団（川堀）に配備
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東日本国府津車両センターにおいて、鉄道災害を想定した県西地区消防合同訓練を実施する。 ・真鶴トンネル防災対策として、車両火災を想定した消防・日本道路公団合同訓練を実施する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急自動車1台購入 真鶴分署に更新配備
平成17年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本消防協会から消防団に「特別表彰まとい」を受章
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・湯河原ライオンズクラブからAEDトレーナー（1台）寄贈
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急消防援助隊の八都府市合同防災訓練（会場；千葉市）に本町消火隊が参加する。 ・携帯電話からの119番直接受信の運用開始
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-型）1台購入 第7分団（吉浜・中央）に配備 ・丹沢湖ダム広場において、山岳救助資器材を活用した県西地区消防合同の救出訓練を実施する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・救出訓練を実施する。
平成18年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第9代消防団長 加藤 博氏 退団
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第10代消防団長 岩本 賢一氏 就任（前副団長兼第3中隊長）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員12名）